

Newsletter for JADR

I. 第91回 IADR 学術大会 (Seattle, USA) を終えて

JADR 会長 高橋 信博

(東北大学大学院歯学研究科口腔生物学講座口腔生化学分野)

今年は全国的に夏の訪れが早い上、既に暑さが厳しく、会員の先生方におかれましては体調管理に苦慮されたのではないのでしょうか。

今回の Newsletter は、本年3月20～23日、アメリカのシアトルで開催された第91回 IADR 学術大会の様相を中心に構成されています。シアトルは、シアトルマリナーズ時代のイチロー選手の活躍や、世界的コーヒーショップであるスターバックスの発祥地として日本人にとって大変親しみのある街となっており、既にシアトルを何度か訪れたことのある先生も多くおられたのではと思います。

IADR 学術大会としては、1994年の第74回大会以来、約20年ぶりのシアトル開催となりました。陽光まぶしい海に面し、海に向かって緩やかに傾斜した斜面に形作られた街は、ビジネスや観光で混み合う中心部とその周辺の住宅地がほどよく調和し、アメリカの中堅の都市に相応しい落ち着いたたたずまいでした。シアトル・タコマ国際空港からダウンタウンまでは、新たに敷設されたリンクライトレールという電車で結ばれており、安く速く、安全快適に、空港から市中心部まで移動することができます。約20年前に最新の観光スポットとして建設された海岸部のショッピングモールは、大分歴史を感じずようになりましたが、今でもシアトル最大の観光・ショッピングエリアとして多くの観光客を集めているようです。

このところの景気の低迷や大学教員の多忙化に加え、東京～シアトル直行便に採用されたボーイング787型機のトラブルのため、日本からどのくらいの参加者があるかと少々危惧いたしておりましたが、最終的に約620人という多くの JADR 会員の先生方にご参加いただくことができました。そして今回の学術大会におきましても、high level な研究成果を世界に発信していただきました。また、日本人の研究成果に対して数多くの授賞がなされたことも、シアトル大会での大きな特徴です。今回の Newsletter をお読みいただき、シアトル大会の様子を今一度思い返していただければ幸いです。

※

IADR の研究活動や運営において、世界第2位の規模を誇る Japanese Division (JADR) への期待が高まっています。かつて、IADR 大会に出席することは、多くの JADR 会員にとって学術発表することが主な目的でしたが、今では、世界の研究者と会い、討論し、新たな共同活動を生み出す場へと様変わりしています。IADR における研究活動の実質的な組織は Scientific Group です。各 Scientific Group は大会中に business meeting を開き、情報交換と共に、今後の研究の方向性やシンポジウム

開催等の研究活動についてグローバルな議論を進めています。定期的なニュースレターの発行やメーリングリストによる情報交換をおこなっている Group も多いようです。もし、まだ Scientific Group に所属していない方がおられましたら、是非、ご自分の専門領域の Group に加わり、より専門的な議論の場としていただければと思います。どの Group に所属するかには全く制限がなく、複数の Group に登録している先生も数多くおられます。複数の Group に所属されることで、細分化された歯学という学問分野をより広い視座から見直すことが可能になると思います。

これまでの学問の発展には細分化や専門化が不可欠でした。ある学問領域の中にどれだけ多くの専門性を持ちうるかが、その学問の規模であり将来性でした。歯学部の中に、これだけ多くの講座や分野があるのはその現れといえるでしょう。しかし、歯学はそもそも口腔全体を対象とする科学であり、口腔の形態や機能を全体的に見るという視点がなければ、個々の専門性は「たこつぼ」という状況に陥ることが危惧されます。さらに、口腔は全身の入り口であり、その健康維持・増進のためには、全身の健康はもちろんのこと、健全な社会環境が必要なことは言うまでもありません。IADR や JADR は歯学全体を対象とした数少ない学会です。これらの学会に参加することは、ご自身の専門の領域のセッションやシンポジウムに参加・発表して専門性を高めながら、日頃、あまり触れていない専門領域の話の聞ける良い機会となるはずで

そして、Oral presentation でも Poster presentation でも、興味や疑問をもったなら、その場で演者に話しかけてみましょう。世界は狭くなったと言いますが、face-to-face で話す機会はまだまだ少ないように思います。Face-to-face で接することで、その研究者の人となりをお互いに知ることができるだけでなく、新たな関係性を生み、これまでにない大きな展開に繋がるが多々あるものです。その力は、今流行の SNS (social network system) を遙かに凌ぐと感じています。

学会を意味する「Association」は、本来、「繋がり」を表す言葉です。JADR が新たな繋がりを生み出す、真の交流の場となることを望んでいます。これからも、会員の先生方の変わらぬご支援をよろしく願い申し上げます。

※学会運営等についてのご意見を募集しています (連絡先: JADR 事務局 TEL: 075-468-8772)。Face-to-face を尊重し、IADR や JADR 大会の場でコンタクトいただくことも大歓迎です。

Ⅱ. 第91回IADR学術大会 (Seattle) 報告

1. Distinguished Scientist Award (Basic Research in Periodontal Research Award) を受賞して

村上 伸也

(大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免疫制御学講座
(口腔治療))

この度、2013年度のIADR Distinguished Scientist Award (Basic Research in Periodontal Research Award) を受賞いたしました。これまで継続して行ってきました歯周病研究の成果を、このようにIADRの選考委員会において評価していただきましたことを大変名誉に思いますと共に、これまで共に研究に励んでくれました口腔治療学教室の先生方に心より御礼申し上げます。これまでに世界の著名な研究者が本賞を受賞しておりますが、日本からは岡田 宏先生 (大阪大学名誉教授)、村山洋二先生 (岡山大学名誉教授)、中山浩次教授 (長崎大学) が、本賞を受賞しております。歯周病学の基礎研究分野での業績が評価される同賞の選考過程で、候補者の一人にノミネートしていただいただけでもありがたいことですが、今回このように受賞の栄誉に浴しましたことは、望外の喜びと感じております。

私は1990年代より、歯周病の免疫学的病態解析と歯周組織再生医学研究を開始し、さらに、歯根膜細胞の分化機構解析やヒトゲノムプロジェクト完遂後には歯根膜組織のomic studyにも取り組んでまいりました。2000年以降は、新規診断法・治療法の確立に向けた橋渡し研究も教室の大きな研究課題になっています。歯周病学分野におけるfrom bench to clinicの研究を志す先生方と、今後も精進していきたいと考えております。

最後になりましたが、私を研究者へと導き、育て、励まし続けて下さいました岡田 宏先生、濱岡利之先生 (大阪大学名誉教授)、Richard Hodes先生 (NIA, NIH director)、松原謙一先生 (大阪大学名誉教授) に、心より感謝申し上げます。



MacDougall IADR 会長から受賞

2. 2013 IADR David B. Scott Fellowship を受賞して

坂本 真一

(広島大学歯学部歯学科6年)

この度、2013 IADR David B. Scott Fellowship を受賞させていただきました。このような国際的な賞を頂いた事を大変光栄に思います。この一年の間に、この賞に見合うだけの研究成果を残し、本学会にて発表する事を目指して、日々精進していきたくて考えております。簡単ではありますが、以下に私の研究内容を紹介させていただきます。

私は非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) に関する研究をしております。NASHは、肥満に関連する脂肪肝から発生する代表的慢性肝疾患です。私が最先端歯学研究コースの学生として研究をしている口腔顎顔面病理病態学教室では、最近、マウスの歯性感染病巣から *Porphyromonas gingivalis* (*P.g.*) が血流を介して肝臓に到達し、NASHの病態を進行させることを発見しました。さらには、NASH患者の肝細胞内にも *P.g.* が検出され、病態の進行度と関係することを明らかにしています。しかし、NASHの病態進行に関わる *P.g.* の役割の詳細については未だ明らかになっておりません。そこで私は脂肪化した肝細胞に *P.g.* が感染した際に生じる病理学的変化を明らかにすることを目的として、不死化ヒト肝細胞株 (HC3716-hTERT) をパルミチン酸で処理することによって脂肪化を誘導した肝細胞 (脂肪化肝細胞) に *P.g.* (W83株) を感染させた際の病理学的変化を、パルミチン酸非処理肝細胞 (非脂肪化肝細胞) と比較しながら検討しております。現在、*P.g.* 感染させた細胞における炎症及び線維化に関するサイトカイン発現を mRNA レベルで経時的に調べ、脂肪化の有無で比較検討しております。また、*P.g.* 感染が口腔粘膜上皮細胞の増殖を促進し、血管内皮細胞や胎盤細胞ではアポトーシスを誘導することが報告されていることから *P.g.* 感染が肝細胞の増殖やアポトーシスに及ぼす影響についても検討をすすめております。

まだまだ失敗の連続で思った通りの結果がでない現状ですが、今回の賞にふさわしい業績を修められるよう、より一層努力したいと思っております。

最後になりますが、本研究に対して御指導いただいております高田 隆教授、宮内睦美准教授ならびに御協力いただきました先生方に心より感謝申し上げます。

3. IADR Pre-Prosthetic Regenerative Scientific Award の 1st prize を受賞して

王 放

(大阪大学大学院歯学研究科 クラウンブリッジ補綴学分野)

この度、第91回 IADR 総会におきまして、IADR Prosthodontics Research Group Pre-Prosthetic Regenerative Science Award for Young Investigators の 1st prize を受賞し光栄に思います。本賞は、再生補綴歯科治療の創成を目指した独創的な学際的研究を行っている若手研究者に対して贈られるものです。このような機会を与えてくださった矢谷博文教授ならびに研究指導をしていただいております江草宏先生、そして助言を頂いた教室員の方々に厚く感謝申し上げます。

私は中国からの留学生として大学院に在籍し、幹細胞における遺伝子発現制御方法の確立を目指した研究に従事しています。現在、我々はテトラサイクリン誘導性の遺伝子発現システムに着目し、これを用いた幹細胞の分化機構の解析を行っています。我々は本発表の研究において、歯周組織再生誘導材 Emdogain® の主成分である Amelogenin の遺伝子発現を制御可能なマウス骨髄由来間葉系幹細胞 (BMSC) 株を作製しました。また、Amelogenin の発現誘導は、この BMSC の骨芽細胞分化を有意に促進したことから、外因性の Amelogenin 発現が BMSC の骨芽細胞の分化を制御することが示唆されました。将来的には本知見が新たな歯周組織の再生技術に繋がることを期待して研究を進めています。

最後になりましたが、今回の受賞により、私の夢である研究者としての道が少なからずとも開けたことを大変嬉しく思っております。しかしながら、その道のりはまだまだ長く、そして険しいものです。これからも、私を支えてくれている家族や皆様に喜んでもらえるよう、笑顔を絶やさず、誠心誠意邁進する所存です。



授賞式会場にて (左より矢谷先生、江草先生、筆者)

4. 第91回 IADR: Salivary Research Session に参加して

野中 直子

(昭和大学歯学部口腔解剖学講座)

2013年3月20日から23日にアメリカ・シアトルのワシントン州コンベンションセンターで開催されました第91回 IADR に参加し発表いたしました。学会1日目より Saliva in Health and Disease Session の口頭発表に参加し、唾液腺の基礎研究から臨床研究へと幅広い内容の発表で、どれも興味深く聴講することができました。ポスター発表は2日目より4日目まで開催されましたが、毎日数多くの唾液腺関連の発表があり、私は学会最終日の Seq. #419 Saliva Diagnostics 2 で「Histological and immunohistochemical comparison of mouse salivary glands in aging」というタイトルで発表しました。このセッションは13演題で構成され、国別ではアメリカ、ブラジル、オーストラリア、フィンランド、デンマーク、中国、そして日本からの演題で、どのポスターも活発なディスカッションがなされていました。私のポスターを見てくださった皆さんはフレンドリーで、とてもわかりやすい英語で質問またはアドバイスをしてくださり、また興味ある唾液腺の発表にはこちらから質問するなど75分間という限られた時間でしたが、有意義なディスカッションの時間を過ごすことができました。この貴重な経験は、これからの自分の研究を発展させる良い刺激となり、帰国後の研究に幅を持たせることになるでしょう。

学会場では UBC 学部長の Charles Shuler 教授や香港大学歯学部歯周病科の Esmonde Corbet 教授に広いコンベンションの中で偶然にもお会いし、久しぶりの再会を喜んで近況報告や今回の研究内容についてお話することができました。IADR に参加し、このように多国からの研究者にお会いすることは、この学会がグローバルなコミュニケーションの場となり、貴重な経験ができる場であること、さらに基礎・臨床の垣根を越えて歯科医学・医療発展のための学際的な研究を営むための貴重な場として位置していることを改めて再認識いたしました。国際的な感覚を持つためにも、国際学会に参加し研究発表をすることはもちろん重要ですが、このような人と人との触れ合いを大切にしていきたいと思いました。今回の IADR には世界中から 12,000 名の研究者の参加ということでしたが、参加者ひとりひとりが研究への熱い思いを持ち、共有した時間だったと思います。

シアトルは坂の町で、緑と水に囲まれた素敵な街でした。ウォーターフロントにはいくつものピアが並び、島へ渡るフェリーやクルーズ船が行き来し、遠くには雪をいただいた山々を見ることができ大自然にもふれることができました。海の幸に恵まれているのでサーモンやカニなど新鮮な魚介類を食べることができ、有名なクラムチャウダーも美味しくいただ

くことができました。

第92回 IADR は2014年に南アフリカのケープタウンで開催されるとのことですので、研究を続けてまた参加したいと思えます。

5. IADR 大会参加報告

竹立 匡秀

(大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免疫制御学講座)

レポートセッション

Periodontal Research – Therapy – Differentiation and Proliferation of Periodontal Cells

今回の第91回 IADR General Session は、アメリカ北西部最大の都市シアトルにて開催された。時折小雪のちらつくなか、会場となった Washington State Convention Center は初日から活気あふれる研究発表と旺盛なディスカッションによって熱気に包まれていた。

そのなかで、私は Periodontal Research のなかから、Differentiation and Proliferation of Periodontal Cells のセッションについてレポートする。

本セッションは、セメント芽細胞に関する演題2題、歯肉線維芽細胞に関する演題1題、歯根膜細胞に関する演題3題の合計6題から構成され、Sichuan 大学のグループによる発表からスタートした。彼らは低酸素状態での培養がセメント芽細胞の分化および破骨細胞分化制御因子の発現を制御していることを示した。続いて広島大学の加治屋先生の発表では、脳由来神経栄養因子 Brain-derived neurotrophic factor (BDNF) の低分子類似化合物が BDNF 同様に TrkB のシグナルを活性化することにより ERK のリン酸化を誘導し、セメント芽細胞の分化を促進的に制御することが示された。加治屋先生の所属される広島大学のグループはこれまでに、BDNF の局所投与による歯周組織再生誘導効果を前臨床試験にて明らかとしており、本発表での研究成果は、同低分子類似化合物の使用により、より安全、安価で効率のいい歯周組織再生誘導療法の開発につながる基礎的データとして期待されるものであった。次にカナダの Western 大学のグループより FGF-2 microsphere を含浸させた足場材が歯肉線維芽細胞の細胞機能に及ぼす影響について報告された。結合繊維移植の際に有用な足場材の開発につながる情報であると考えられた。その後、ドイツと中国のグループがそれぞれビスフォスフォネートの歯根膜細胞に及ぼす影響について発表を行った。最後にセッションの座長を務められた東京理科大学の齋藤先生の発表では、ADAMTSL6 β が歯根膜組織のマикроフィブリル形成促進を介して、歯根膜組織の創傷治癒を促進することが示された。マウスの歯芽再植モデルを用いた *in vivo* の研究から、歯根膜組織の創傷

治癒過程で内因性の ADAMTSL6 β の発現が誘導されることが示されるとともに、歯根膜組織の創傷治癒や再生に同分子の補充療法が効果的であることが、とても鮮明なデータで示された。細胞外基質の補充や制御による歯根膜組織の治療方法は過去に前例がなく、大きなインパクトをもたらすものと思われた。

今回の IADR は年度末における開催にも関わらず、多くの日本人研究者が参加し、数多くの素晴らしい発表がなされた。特に今回報告するセッションでは、上記お二人の日本人研究者の発表が秀逸であったと感じられ、日本の歯学研究の質の高さが窺えるセッションであった。

6. Prosthodontics Research

一色 ゆかり

(昭和大学歯学部高齢者歯科学講座)

91st IADR General Session & Exhibition は3月20日から23日の4日間にわたってアメリカ合衆国のシアトルで開催されました。シアトルは世界の航空・宇宙産業の中核をなすボーイングをはじめ、マイクロソフト、アマゾン、スターバックスなど、世界に名を知られる大企業の誕生の地です。学会開催中は雨が多く、肌寒い日が続きました。学会会場の Washington State Convention Center はタコマ空港から車で30分のダウンタウンにあり、治安も良く快適に過ごすことが出来ました。

Prosthodontics Research のセッションでは口演発表46題、ポスター発表118題、計164演題 (withdrawn 含む) の発表があり、活発なディスカッションが行われていました。今回この分野からの日本の発表は24演題 (口演8題、ポスター16題) でした。Prosthodontics Research のセッションの内容は大きな変化はなく、補綴材料・補綴装置 (クラウン・ブリッジ・義歯・インプラント等) の基礎から臨床に渡る広範囲な発表が行われていました。

私の参加させて頂いたポスターセッション (Prosthodontics Research – Clinical Studies, Edentate Patients) では17演題のうちブラジルが8題と半分以上を占め、次に日本が5題あり、その他はイギリス・ドイツ・イタリアからの報告でした。私のポスターの両隣が東京医科歯科大学の先生の発表、向かい側のポスターが同じ医局の先輩先生の発表で日本の方の多いエリアでした。ブラジルからは義歯安定剤の研究が多くみられました。また、義歯の機能を評価する方法について、義歯に対する満足度を評価する研究など各種咬合器・フェイスボウを使用して精度を比較した研究など臨床に活かすことの出来るような演題も多く、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

今回、私は IADR に初めて参加しました。普段参加している学会は一つの専門分野についての発表をみることしか出来ませんが、他分野のポスターが見切れないほど多く並んでお

りととても新鮮に感じました。有意義な4日間を過ごすことが出来たと感じております。

来年のケープタウンでの発表を目指して研究に励んでいる後輩に今回感じたこと、経験を伝えていきたいと思っております。

7. 第91回 IADR に参加して

新保 秀仁

(鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座)

アメリカのワシントン州シアトルにて3月20日から23日まで開催された第91回 IADR General Session & Exhibition に参加しましたのでご報告させていただきます。3月のシアトルは降雪もみられる寒い気候でありましたが、週末には港町らしい活気が溢れていました。学会会場もまた活気を帯び、活発な Discussion が行われていました。同じ専門分野の先生方だけでなく、異なる分野の先生方からもお話を聞ける機会があり、情報交換の場として非常に有益であったと感じています。

今回、当講座から有床義歯補綴学に関する内容で6演題のポスター発表をさせていただきました。なかでも2演題は歯学部学生が夏休みを利用して研究し発表しましたのでご紹介させていただきます。今泉直也らは“Bonding strength of soft lining materials to thermoplastic resins” 4MATA-MMA/TBB レジン接着材として使用し、ノンメタルクラスプデンチャー材料として使用される熱可塑性樹脂と軟質裏装材の接着性に関して報告しました。また永島百合らは“Flexural properties of relined injection-molded thermoplastic denture base resins” 4MATA-MMA/TBB レジン接着材として使用し、アクリル系裏装材によってリラインした熱可塑性樹脂の工学的性質に関して報告しました。今回参加した学生のうち4人は臨床実習を行っている歯学部5年生であり、臨床や試験に追われる日々を送っています。その中で大学院生の指導を受けながら実験、データのまとめ、ポスター製作まで行い、大変な苦労があったと思います。しかしながら学部教育の中で基礎的な研究や国際学

会での発表を経験することにより、歯学に対する研究に興味を持ってだけでなく、指導する若い大学院生も含めて、大きな成長に繋がったのではないかと感じています。

IADR は国際学会のなかでも若い研究者に対する Award が多くあるのも魅力の一つではないでしょうか。本大会では広島大学口腔顎顔面病理病態学にて研究されている歯学部5年生坂本真一さんが David B. Scott Fellowship を受賞されておりました。また Unilever Hatton Divisional Award でも数名の大学院生が Finalist として選出され、ポスター発表を行っていました。多くの若い研究者に対して Award が贈られることは研究者としての自信に繋がるだけでなく、今後の研究レベルの向上にも寄与するのではないかと考えています。次回の IADR でも多くの若い日本人研究者が発表し、Award を受賞されることを期待しています。

8. Dental Materials and Microbiology

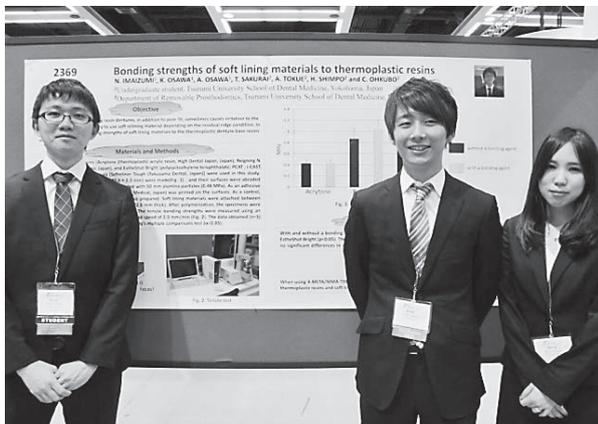
真柳 弦

(東北大学大学院歯学研究科インターフェイス研究事業)

2013年3月20日～23日、アメリカ合衆国ワシントン州シアトルで開催された第91回 IADR に参加してきました。

約2年前、第89回 IADR での発表に向けてポスターを印刷し終えた直後に東日本大震災が発生し、出来たてのポスターを腕にかかえたまま、激しい揺れが収まるのを待ちました。その後の交通事情等の影響でやむを得ず参加を断念致しました。今回は会期が2年前とほぼ同じ時期でしたので、何事もないことを願っておりましたが、ボーイング787型旅客機のトラブルの影響で、シアトルまでの直行便をサンフランシスコ経由便へ振り替えることになりました。さらに、振替便のサンフランシスコへの到着が遅れた上に、入国審査の混雑が重なり、乗り継ぎ時間が無くなったため、日本時間の早朝に寝不足の状態で空港内の端から端までをグランドアテンダントに促されるままランニングするという不安な幕開けとなりました。しかし、到着したシアトルの街がその不安を一掃してくれました。会場のある中心部には近代的なビルが並んでいますが、その中心部から徒歩10分程度で海まで行くことができるという環境でしたので、季節的なこともあり海風はやや冷たかったものの、雰囲気も非常に良い街で長時間フライトの疲れも吹き飛びました。

学会では、私の研究テーマである Dental Materials, Microbiology, Cariology のセッションを中心に参加しました。Dental Materials では、既存あるいは新規材料の性質に関する基礎的な研究から臨床応用に関するものまで、多岐にわたる発表が多く、歯科材料に関する研究の多様性を感じ、今後もこの分野の研究は増加するであろうと実感しました。Microbiology の分野では、バイオフィルムをキーワードとしている研究が非常に多くみられたのが印象的でした。私達の研究でも考慮していること



鶴見大学歯学部学生によるポスター発表

ですが、in vitroの実験において、細菌を菌懸濁液に浮遊している状態から発展させて、バイオフィルムとして存在させ、いかに口腔内環境に近い状態を実験系として再現するかというところに他の研究者も苦勞されているようでした。その点の難しさや工夫に関する議論を活発に行なうことができました。

また、私が中心に参加した3分野ともに唾液を介在させての研究や唾液の存在を考慮した研究発表を盛んにみる事ができました。唾液という因子を1つ増やすとそれだけデータの解釈が複雑になりますが、バイオフィルムと同様に唾液に関しても口腔内環境を考える上では不可欠ですし、今後さらに検討していく必要があるのではないかと考えさせられました。

今回のIADRでは、参加・発表を通じて、世界各国から集まった同じ専門分野の研究者達と意見の交換を行なう機会を得ることができ、大いに刺激を受け、今後の自身の研究に役立つ情報が得られたうえに、モチベーションも高められた非常に有意義な学会参加となりました。

9. Neuroscience —Occlusion and Mastication—

森 大輔

(朝日大学歯学部口腔機能修復学講座歯科補綴学分野)

この度、2013年3月18日よりアメリカ合衆国ワシントン州シアトルのワシントン州コンベンションセンターにて開催された第91回IADR総会および学術大会に参加いたしました。学会に参加するのに先立ち、朝日大学の堀田教授からご推薦を賜り、参加報告の機会をいただきました。3月末とはいえシアトルはとても寒く、朝晩は毎日10℃以下になり、外出を躊躇うような天候では有りましたが、とても閑静で美しい町並みでありました。本会では3500以上もの演題発表があり、日本からの演題も数多く観られ、会場も非常に多くの参加者で溢れておりました。

私は、Neuroscienceの中でも口腔機能と中枢神経系の記憶や学習に関する研究に携わっているため、Neuroscience関連のセッションへの参加が中心となりました。Neuroscienceでは11のセッションで計96演題もの発表が行われ、どのセッションにおいても活発な質疑応答がなされていました。その中で私の発表したOcclusion and Masticationポスターセッションについて報告します。このセッションでは、咬合、咀嚼について、口腔内環境や神経機能が咬合に及ぼす影響や、また咬合が全身に及ぼす影響についての発表が主になっていました。この中のいくつかをピックアップして紹介いたします。まずは、中国の北京大学のグループから、咬合干渉の持続時間や感覚異常と神経の形態的な変化との関連について、咬合高径の高い歯冠補綴物の装着により引き起こされる電気刺激からの逃避行動の変化、そして変化の回復機序に関与するグリア細胞の活性化のそれぞれ経時的な変化についての研究発表があり

ました。不良補綴物が引き起こす感覚異常やその回復について経時的な変化が観察され、短期的な咬合不調和による全身への影響はこれまであまり解明されておらず、また極めて短期間であれば可塑性で有ることも含めとても興味深い発表でした。またより長期間の咬合異常と全身疾患との関連について、岡山大学のグループから、アルツハイマー病の関連物質である海馬内のアポリタンパクEとアミロイドβの産生が臼歯部の喪失による咬合の不調和により増加することを報告されていました。咬合の不調和による海馬での神経新生の減少や神経細胞死については私達の研究グループがこれまでも発表しています。その神経系の器質的な変化に対する原因因子の解明は行なってきたのですが、アポリタンパクやアミロイドとの関与は調べていませんでした。認知機能や運動機能の減退に対しアルツハイマー病と関連付けることでさらなる発展が想像される発表でありました。同セッション10演題の中に日本人グループによるものが4演題を占めており、本分野における日本人の活躍が目立つセッションとなりました。セッションではトロント大学のBarry Sessle先生とお話する機会があり、私のポスター発表から動物実験における研究の手技について幾つか助言をいただいたことが非常に思い出に残っています。

今回のセッションを含め多くの研究報告を聴講し、非常に参考になり、また多大なる感銘をうけました。今後さらに自分の研究を発展させることで再びこのような機会を持つことができるよう努力して行きたいと思えます。簡単ではありますが、IADRの参加報告とさせていただきます。

10. Prosthodontic Research Group

岩佐 文則

(昭和大学補綴歯科学講座)

2013年3月20日から23日にかけて、第91回IADR総会が、第42回AADRと第37回CADRとの同時開催でアメリカワシントン州のシアトルで開催されました。御存知のとおりシアトルはアメリカ西海岸、日本からも比較的アプローチしやすいこともあり前回のブラジルでの90回総会と比較しても日本人の参加は多かったのではないかと思います。また冬から春にかけてのこの時期は大変雨が多いとのことで、地元の方々もレイン、レインといって顔を曇らせていましたが、有名なスターバックス1号店だけは長い行列ができて熱気に溢れていました。

大会のオープニングに先立ちまずHatton Awards Competitionの審査が前日の19日より行われ、私達の講座からも大学院の鈴木航君が日本代表の4人に選出され当日のプレゼンテーションに臨みました。残念ながら発表はクローズだった為プレゼンの様子を見ることはできず、また日本勢の結果もベストではなかったようですが、簡単にはできない貴重な経験を今

後の研究生生活に生かしてくれるものと期待しています。

今回の IADR の総演題数は 3,957 で、そのうち Prosthodontics research group では口演 46 題、ポスター 118 題、合計 164 の演題発表がありました。日本からの発表は口演 9 題、ポスター 25 題、合計 34 演題で前回のブラジルのイグアス大会よりは確実に多かったのですが、ブラジルとドイツからの報告が非常に多かったことが記憶に残っています。私自身は 2009 年のマイアミで開催された IADR で初めてポスター発表しました。以来できるだけ参加して発表するよう心掛けていますが、IADR では研究発表しその分野の研究動向を幅広く収集するだけでなく、以前留学して指導を受けた先生やそこで知り合った友人、あるいは幾度か研究室を訪問してお世話になった先生方と再会し、研究上のディスカッションやプライベートの話題などをお話するのも楽しみの一つであると思っています。今回は留学中の指導教官であるカリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) 教授の小川隆広先生をはじめ、Prosthodontic group や Implant group の多くの仲間と再会し、今注目の再生医療やデジタルデンティストリーについて語り合ってきました。

最後に、次回 2014 年大会 (第 92 回 IADR 総会) はアフリカのケープタウンでの開催となります。Prosthodontic group では次回の President にドイツ、フライブルグ大学の Dr. Wael Att が就任することになりました。同じラボのメンバーとして大変うれしく、また誇らしく思うと同時に、次会の成功を祈りつつ簡単ではございますが、第 91 回 IADR 総会の報告とさせていただきます。

11. 第 91 回 IADR 学術大会・参加報告

植原 治

(北海道医療大学歯学部口腔構造・機能発育学系保健衛生学分野)

2013 年 3 月 20 日から 23 日まで米国・シアトルで開催された第 91 回 IADR 学術大会に参加しました。

これまでに私は、米国・サンディエゴで開催された第 89 回大会とブラジル・イグアスフォールズで開催された第 90 回大会へ参加し、歯周疾患とエピジェネティクスの関連性について発表を行ってきました。今回のシアトルでは、共同発表者であると共に、国家試験を終えたばかりの本学卒業生 2 名 (Joseph Lister Award 受賞者) の発表者の引率も兼ねた参加となりました。出発日が国家試験合格発表の翌日ということもあり、合否の状況を心配しておりましたが、2 名とも無事合格し、和やかな雰囲気の旅路となりました。

会場は治安の比較的良好な街の中心地で 1 か所に集約されていたため、ホテルからの移動も容易でした。演題数は 4000 近くもあり、前回大会よりも規模が大きく日本からの発表者も多くみられました。我々のグループからは、Oral Medicine & Pathology と Oral Health Research の分野で計 8 演題ポスター発

表を行いました。

私の参加したこれまでの IADR 学術大会では、エピジェネティクスに関する研究は口腔がん DNA のメチル化に着目した研究が数演題みられ、がん以外の疾患に関する研究は非常に少ない印象でした。最近の文献では、糖尿病、アレルギー、自己免疫疾患などへのエピジェネティックの関与も示唆されてきており、歯周炎の発症・進行に関わる炎症性サイトカインやコラーゲンなどのエピジェネティクスな修飾も報告されはじめています。今回の大会でも、Hatton Awards で “Epigenetic Therapy for Experimental Periodontitis in A Mouse Model” や “Histone-Deacetylase-Inhibitors Epigenetically Promote Reparative Events in Primary Dental Pulp Cells” との発表があり、Lunch & Learning では “Epigenetic Regulation of Gene Expression in Periodontal Diseases” とのタイトルがとりあげられるなど、歯科領域でも悪性腫瘍以外の分野でのエピジェネティクスに関する発表が増えてきたような印象でした。我々のポスター発表は歯周病原菌によるエピジェネティック修飾に関するもので “*P.gingivalis* LPS induces alteration of histoneH3-acetylation of RUNX2 in HPDL” と “Histone H3 Acetylation in Gingival Epithelium induced by *P.gingivalis* LPS” では多くの人が訪れ、これまでにない活発な討論を行うことができました。

一方、従来の口腔がん DNA のメチル化に着目した研究では、 “Black Raspberry-mediated Epigenetic Changes in Human Oral Cancer Cells” とのタイトルで、クロミキイチゴの抽出物が、がん細胞の DNA 脱メチル化を行うことから、これをがん治療への応用した興味深い研究がありました。天然素材由来の物質によるエピジェネティック変化を介した治療は、今後、副作用が少ないエピジェネティック創薬として期待されるものと思われました。

エピジェネティックに関する研究は年々増加傾向にあり、これまでの悪性腫瘍に関わるものから、歯周疾患や歯髄に関するものと範囲が広がっていることを実感させられた大会でした。

12. 第 91 回 IADR 学術大会 (Seattle) 報告

— Periodontal Research —

本田 朋之

(新潟大学大学院医歯学総合研究科歯周診断・再建学分野)

第 91 回 IADR 学術大会が 2013 年 3 月 20 日から 23 日にかけてワシントン州シアトルにて開催され、参加いたしました。シアトルは、私が日本歯科大学の学生時代に参加した交換学生プログラムの際に立ち寄った、人生で初めて降り立った海外の地です。この度、十数年の時を経て再びその思い出の街を訪れることができました。ダウンタウンの活気は以前と全く変わらず、1 ブロックに 1 店舗はある某コーヒーチェーン店の多さにはあらためて驚かされました。

シアトルへは直行便を利用して約9時間、渡航に何らストレスを感じることはなく、それだけに学術大会にも集中できたように思います。例年の学術大会よりも各国からの参加人数は多い印象を受け、勿論、多くの日本からの参加がありました。広いコンベンションセンターを余すことなく使用し行われた各セッションは、どこも熱気に溢れ活発に討論がされていました。会期中の4日間におきまして Periodontal Research のセッションでは、口演発表78題、ポスター発表234題の計312題の発表がありました。その中で日本からの演題数は、口演発表2題、ポスター発表37題の計39題(12.5%)を占め、当セッションにおける日本の勢いを示すことができたのではないのでしょうか。私の所属する研究グループからも、私を含む計4演題のポスター発表を行いました。また、Periodontal Diseases: What Have We Learned from Omics Research? および Defining and Interpreting Outcomes in Periodontal Clinical Trials と題された2題のシンポジウムが行われました。Omics research については私も携わった経験があり、興味深い内容でありましたが、この領域の研究の重要性和難しさをあらためて感じるシンポジウムでした。

私は今回、Pathogenesis カテゴリーにて Periostin Up-regulated by Th2 Cytokines Promotes Periodontal Inflammation という演題にて23日の最終日にポスター発表を行いました。歯根膜に高い発現を認め、歯周組織の恒常性・再生に関わることで知られている Periostin という分子に関して、特に Th2 優位と考えられる歯周炎病態においては炎症を促進する側面をもつことを報告しました。最終日にもかかわらず多くの方に興味を持っていただきました。Periostin について長年注目している研究者からの実験に関するアドバイス等多岐にわたって質問・意見を受け、今後の研究発展に繋がる有意義なディスカッションとなりました。

東京理科大学・辻孝先生による Tooth Regenerative Therapy as a Future Dental Treatment と題された Distinguished Lecture では、天然歯と同等の歯周組織構造をもち、その機能を発揮する再生歯が紹介されるとともに、歯根膜様の構造・機能をもつデンタルインプラントも新たに提示されました。広い会場にも収まり切らない聴衆に大きなインパクトを与えた講演であったと思います。まずは次期以降の IADR 学術大会に向けて、そして辻先生に続くべく気持ちをあらたにし、思い出のシアトルを後にしました。

Ⅲ. 第91回 IADR Council Meeting 報告

JADR 会長 高橋 信博

(東北大学大学院歯学研究科口腔生物学講座
口腔生化学分野)

IADR 会期の前日の3月19日午後1時より、定例の Council Meeting がシアトルにて開催されました。Council Meeting は、IADR 各 Division および各 Scientific Group の代表が一堂に会し、IADR 執行部が作成した原案に基づき、IADR の運営等について議論・承認する場であり、JADR 代表として、高田隆副会長、山崎和久会計理事とともに出席いたしました。このところ数年は、日本歯科医学会からもオブザーバーとしてご参加いただいております。

前回の議事録の承認に続いて、2013年度 IADR Vice-President として Dr. Marc Heft (University of Florida, USA) が承認されました。これにより、安孫子宜光先生は Vice President から President-elect となり、いよいよ来年の IADR 南アフリカ共和国・ケープタウン大会では President に就任されることになります。また、新たに2013年度 IADR Vice-President 候補者として次の3名が承認されました(アルファベット順)。

- ・ Noemi Bordoni, University of Buenos Aires, Argentina
- ・ Grayson (Bill) Marshall, University of California, San Francisco, USA
- ・ Jukka Meurman, University of Helsinki, Finland

新興国の Division 設立も活発で、新たに Indian Division と Iraqi Division の設立申請が承認されました。さらに、学問領域の拡大に伴って、新たな Scientific Group として Stem Cell Biology の設立申請を承認しております。学生の国際的ネットワークをを目指す Student Training and Research-STAR Network の設立も承認いたしました。

IADR の学術誌である Journal of Dental Research の2012年度の状況が報告され、Dentistry for Eigenfactor Score 0.2171 で81誌中第1位であること、2-year Impact Factor は3.486 で第2位であること、投稿数は1200を超え、採択率は約10%であること等が示されています。

IADR の2012年度の決算および2013年度の予算についても説明があり、原案通り承認されました。なお、IADR 会費は、予定通り漸次値上げを行うことが既に決定しており、日本の正会員の会費は2013年\$135、2014年\$140、2015年\$145となる予定です。極端な円高は日本経済によろしくないのですが、急速な円安は会員負担の増加に繋がり難しいところです。

今回の大きな決定の一つは、これまでの会員の種別に新たに Affiliate Membership が加わったことです。Affiliate Member とは「A person who is not primarily involved in research but has an interest in keeping up with the latest research, e.g. a practicing healthcare professional, a dental professional involved in PBRNs

(practice based research networks) or evidence-based dentistry, patient advocates, or healthcare educators with primary teaching responsibility. Affiliate members receive limited benefits and are not eligible to vote or hold office in the Association.』と規定されています。本会員設置の目的は、臨床等で研究から離れた歯学関係者が継続して IADR 会員となり、IADR 活動を通して最新の研究に触れる機会にしてみようとともに、IADR 会員数の維持に貢献してもらおうことにあります。

2018 年度の IADR General Session の開催地はロンドン(英国)とすることが承認され、また、2013 年度 IADR Distinguished Scientist Awards および IADR Unilever Hatton Divisional Awards 受賞者が報告され、議事はほぼ終了となりましたが、この後、恒例の Interactive Council Feedback Session が行われました。これは出席者全員が小グループに分かれて IADR の運営等について討議し、その場で纏めて発表するというワークショップです。今回の課題は IADR が行いうる若手研究者への支援方法等についてでした。私のグループには南米やヨーロッパの代表が入っており、それぞれ国・地域の事情が異なるものの、共通した若手研究者支援として、如何に研究指導やメンターシップを提供するかが議論されました。研究の実力を付けるためには時間と労力が必要ですが、現在の効率重視のスピード化された時代において、地道に研究力を磨くことが容易ではないことを改めて実感した次第です。

約 4 時間にわたる会議が終了すると既に夕暮れ、あいにくの雨のため冷え込んできました。しかし、Council Meeting の後には Council Dinner が用意されており、今回はシアトルの歴史的シンボルである Space Needle に移動しての会食となりました。座席は自由であり、また会も半ばとなると皆が自由に席を移動するため、各国からの代表者と、お酒の勢いを借りながら懇親を深めることが可能です。この Council Meeting で新たに知り合った方々と、さまざまな場所、機会ですれ違うことを楽しみにしています。

IV. IADR-APR Business Meeting 報告

JADR 会長 高橋 信博

(東北大学大学院歯学研究科口腔生物学講座
口腔生化学分野)

IADR 会期中の 3 月 20 日午後 1 時より、IADR-APR Business Meeting がシアトルにて開催されました。APR (Asia Pacific Region) は、IADR の Division および Section のうちアジア太平洋地区に位置する Australian/New Zealand Division, Chinese Division, Japanese Division (JADR), Korean Division, Mongolian Section, Pakistan Section, Southeast Asian Division (アルファベット順) からなり、アジア太平洋地区の歯学研究の交流と発展を目指して組織化されています。毎年、IADR 学術

大会中に Business Meeting を開催し、情報交換を行うとともに、約 3 年に一度、APR の部会が輪番制で IADR-APR 学術大会を開催し、研究交流を行っています。ちなみに今年度は IADR-APR の開催年にあたり、8 月 21 ~ 23 日に Southeast Asian Division の主催でタイ・バンコクにて学術大会が開催されます。なお、本年度の JADR 学術大会は IADR-APR 共催となるため、日本国内での開催は行いません。

今年の Business Meeting は Korean Division が Chair を担当し、JADR からは、高田隆副会長、山崎和久会計理事とともに出席いたしました。IADR 執行部から President-elect (当時: 現 President) の Helen Whelton 先生、Executive Director の Christopher Fox 氏も挨拶に見え、盛会となりました。

議事に先立ちそれぞれの自己紹介を行い、会議が始まりました。前回の議事録の承認の後、IADR Board Member のお一人である Korean Division の Byung-Moo Min 先生より IADR Board からの報告があり、APR に関する話題として、Indian Division の設立承認が報告されました。引き続き Indian Division の代表から挨拶があり、今後、協力的に APR に参加していく旨が述べられました。

続いて、本年 8 月にタイ・バンコクにて開催される第 2 回 IADR-APR 学術大会について、会頭である Pasutha Thunyakitipisal 先生より、学会概要について説明がありました。5 名以上のグループ登録で登録料を 5% ディスカウントする等、いかに多くの会員に参加していただくかを工夫されていることがわかりました。このニューズレターが皆様のお手元に届く頃には、IADR-APR 学術大会の詳細が既に定まっていると思いますが、世界第 2 位の会員数を擁する JADR としてできるだけ多くの会員の皆様に参加していただきたいと思いました。

2016 年に韓国・ソウルにて開催が決定している第 94 回 IADR 学術大会について、会頭となられる Byung-Moo Min 先生より、準備状況について報告がありました。準備は大変順調に進んでいるとのこと、大会に向けての意気込みが感じられました。ソウル大会は第 3 回 IADR-APR 学術大会も共催することとなっており、アジア太平洋地区はもちろんのこと世界中から多くの方々が参加者することが期待されます。会期は 2016 年 6 月下旬となる予定です。なお、2019 年に第 4 回 APR 学術大会をインドで開催したい旨、Indian Division より申し出がありました。大分先の話ですが、情報が入り次第、会員の皆様にご報告いたします。

IADR-APR 学術大会ではこれまで合同シンポジウムを開催したことはないことから、そろそろそのような企画を望む声



APR Business Meeting において

が出されました。2016年の第3回 IADR-APR 学術大会において1～2つのシンポジウムを試行することで合意が得られ、各 Division および Section からシンポジウム演者を選出すること、シンポジウムテーマは APR での協議にて決定することが決まりました。

和やかな雰囲気の中、予定通りの1時間で Business Meeting は終了し、記念撮影の後に解散となりました。次回は2014年6月の第92回 IADR 学術大会（南アフリカ共和国・ケープタウン）にて再会することとなります。

V. 第62回国際歯科研究学会日本部会(JADR) 総会・学術大会開催のご案内

大会長 村上 伸也

(大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免疫制御学講座
(口腔治療学教室))

会 期：2014年12月4日(木)～12月5日(金)
会 場：KKR ホテル大阪

〒540-0007 大阪市中央区馬場町2-24

大会長：村上 伸也(大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免疫制御学講座(口腔治療学教室))

準備委員長：北村 正博(大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免疫制御学講座(口腔治療学教室))

VI. 第92回 IADR 総会・学術大会 (Cape Town, South Africa)のご案内

第92回 IADR 総会・学術大会は、2014年6月に Cape Town (South Africa) で開催されます。

JADR 会員の皆様の積極的な参加を期待します。

会 期：2014年6月25日(水)～28日(土)
開 催 地：Cape Town (South Africa)

演題登録開始：(TBA)

演題登録締切：2014年1月13日(月)



Ⅶ. 国際歯科研究学会日本部会 (JADR) 東日本大震災義援金受付について

JADR では、東日本大震災により被災した方へ長期継続支援を目標に、引き続き義援金を募集しております。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

名 称：国際歯科研究学会日本部会 (JADR) 東日本大震災義援金

目 的：東日本大震災により被災した方、特に就学に困難を生じた学生への就学支援を行うことにより、将来の歯科医師育成への一助とする。

内 容：JADR 会員より寄付を募集し、震災遺児への奨学金制度を持つ団体へ寄付する。

支援先*1：日本ユネスコ協会 <https://www.unesco.or.jp/kodomo/>
(東日本大震災子ども支援募金ユネスコ協会就学支援奨学金として)

受付期間：長期継続支援を予定

受付窓口：下記の口座へ、ご送金ください。

国内振込先銀行口座 銀 行 名：三菱東京 UFJ 銀行 支 店 名：江坂駅前支店 口座番号：普通預金 0078861 口 座 名：国際歯科研究学会 日本部会 会計理事 山崎 和久
--

*国内銀行口座の場合、振込金額の指定はございません。

* JADR 国内学術大会を開催年は、大会参加登録と合わせてご寄付いただけます。

問い合わせ先：国際歯科研究学会日本部会 (JADR) 事務局
〒 612-8082 京都市伏見区両替町 2-348-302
アカデミック・スクエア (株) 内
TEL：075-468-8772 FAX：075-468-8773

*1 2012 年度は、あしなが育英会 (東日本大地震・津波で保護者が死亡・行方不明または重度後遺障害の 0 歳児から大学院生までに奨学金および返済不要の「特別一時金」を給付) へ寄付いたしました。2013 年 3 月 31 日で同寄付金の受付が終了したため、支援先を変更することとなりました。

CONTENTS

I. 第91回 IADR 学術大会 (Seattle, USA) を終えて	1	I. After the 91st IADR General Session in Seattle Dr. Nobuhiro Takahashi : JADR President	1
II. 第91回 IADR 学術大会 (Seattle) 報告		II. Reports of the 91st IADR General Session in Seattle	
1. Distinguished Scientist Award (Basic Research in Periodontal Research Award) を受賞して	2	1. 2013 IADR Distinguished Scientist Award in Basic Research in Periodontal Disease Dr. Shinya Murakami : JADR Immediate Past President	2
2. 2013 IADR David B. Scott Fellowship を受賞して	2	2. 2013 IADR David B. Scott Fellowship Mr. Shinichi Sakamoto : Hiroshima Univ.	2
3. IADR Pre-Prosthetic Regenerative Scientific Award の 1st prize を受賞して	3	3. 2013 IADR Prosthodontics Research Group Pre-Prosthetic Regenerative Science Award for Young Investigators Dr. Wang Fangfang : Osaka Univ.	3
4. 第91回 IADR: Salivary Research Session に参加して	3	4. Reports of the 91st IADR General Session Dr. Naoko Nonaka : Showa Univ.	3
5. IADR 大会参加報告	4	5. Reports of the 91st IADR General Session Dr. Masahide Takedachi : Osaka Univ.	4
6. Prosthodontics Research	4	6. Reports of the 91st IADR General Session Dr. Yukari Isshiki : Showa Univ.	4
7. 第91回 IADR に参加して	5	7. Reports of the 91st IADR General Session Dr. Hidehito Shinpo : Tsurumi Univ.	5
8. Dental Materials and Microbiology	5	8. Reports of the 91st IADR General Session Dr. Gen Mayanagi : Tohoku Univ.	5
9. Neuroscience —Occlusion and Mastication—	6	9. Reports of the 91st IADR General Session Dr. Daisuke Mori : Asahi Univ.	6
10. Prosthodontic Research Group	6	10. Reports of the 91st IADR General Session Dr. Fuminori Iwasa : Showa Univ.	6
11. 第91回 IADR 学術大会・参加報告	7	11. Reports of the 91st IADR General Session Dr. Osamu Uehara : Health Sciences Univ. of Hokkaido	7
12. 第91回 IADR 学術大会 (Seattle) 報告 — Periodontal Research —	7	12. Reports of the 91st IADR General Session Dr. Tomoyuki Honda : Niigata Univ.	7
III. 第91回 IADR Council Meeting 報告	8	III. Report of the IADR 2013 Council Meeting Dr. Nobuhiro Takahashi : JADR President	8
IV. IADR-APR Business Meeting 報告	9	IV. Report of the APR 2013 Business Meeting Dr. Nobuhiro Takahashi : JADR President	9
V. 第62回国際歯科研究学会日本部会 (JADR) 総会・学術大会開催のご案内	10	V. Announcement of the 62nd JADR General Session Dr. Shinya Murakami : Chair of the 62nd JADR meeting	10
VI. 第92回 IADR 総会・学術大会 (Cape Town, South Africa) のご案内	10	VI. Announcement of the 92nd IADR General Session in Cape Town (2014)	10
VII. 国際歯科研究学会日本部会 (JADR) 東日本大震災義援金受付について	11	VII. The Great East Japan Earthquake Relief Fund	11

●編集後記●

シアトルで開催された第91回 IADR 学術大会が盛会裏に閉幕しました。熱気にあふれる学術大会の様子とともに JADR 会員の活躍の様子が、高橋 JADR 会長による総会学術大会の総括や各リサーチグループに参加されたモニターの皆様からの報告からひしひしと伝わってきます。今回の大会で JADR 前会長の村上先生をはじめとして、3名の JADR 会員が Distinguished Science Award を受賞されたことは、もとより受賞者の皆様の特筆に値するご研究の成果が高く評価された証ですが、同時に我が国における歯学研究の質の高さも評価されたものと大変誇らしく思います。また、辻先生による Distinguished Lecture には今回の学術大会で一番多くの聴衆が集まり、ご講演後には最大級の賞賛が与えられましたことは、JADR として感激の瞬間でした。さて、安孫子先生の IADR における President-elect としてのご先導が、いよいよ、本格始動しました。今回のニューズレターは、IADR の中で質量ともに大変重要な位置を占める JADR のさらなる発展を大いに期待させるナンバーとなったと思います。JADR 会員の皆様の情報交換の場として、引き続きニューズレターの充実改善に努めたいと思います。ご意見ご感想等をお寄せくださいますようお願いいたします。

発行 国際歯科研究学会日本部会 (JADR) <http://jadr.umin.jp/>

連絡先: 〒612-8082 京都市伏見区両替町 2-348-302

アカデミック・スクエア (株) 内 TEL: 075-468-8772 FAX: 075-468-8773

JADR 副会長 高田 隆 (広島大学医歯薬保健学研究院口腔顎顔面病理病態学)

連絡先: 〒734-8553 広島市南区霞 1-2-3 FAX: 082-257-5619

2013年9月1日 発行